

2. 黒河内の概況

2-1. 地形・地質や森林等の概況把握

(1) 森林簿情報等の整理 (小班別平面図の作成)

①表層地質

表層地質は、堆積岩の古硅岩 (砂岩と石英チャートのれき岩)、輝緑凝灰岩 (火山灰由来の堆積岩)、古粘板岩 (泥岩等が圧力〔低変成作用〕を受け硬く緻密なもの) の出現が多い (図 6-22)。

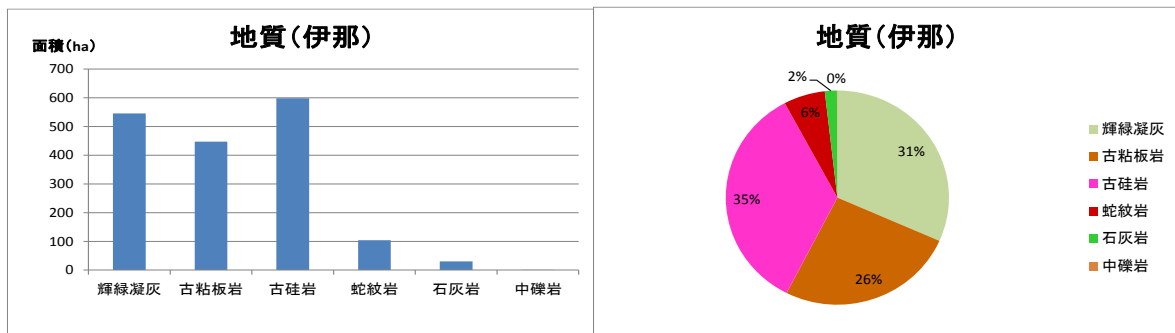
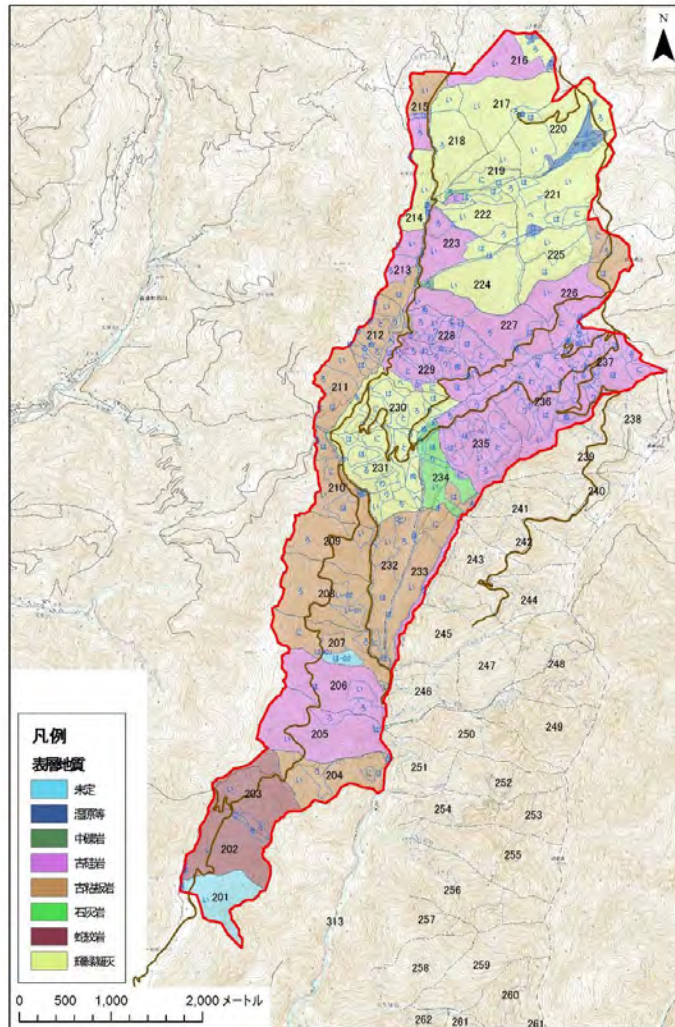


図 6-22 表層地質 (森林簿より)

②表層土壌

表層土壌は、BD型（適潤性褐色森林土）、BE型（弱湿性褐色森林土）、BDd型（適潤性褐色森林土〔偏乾亜型〕）の出現が多い（図 6-23）。

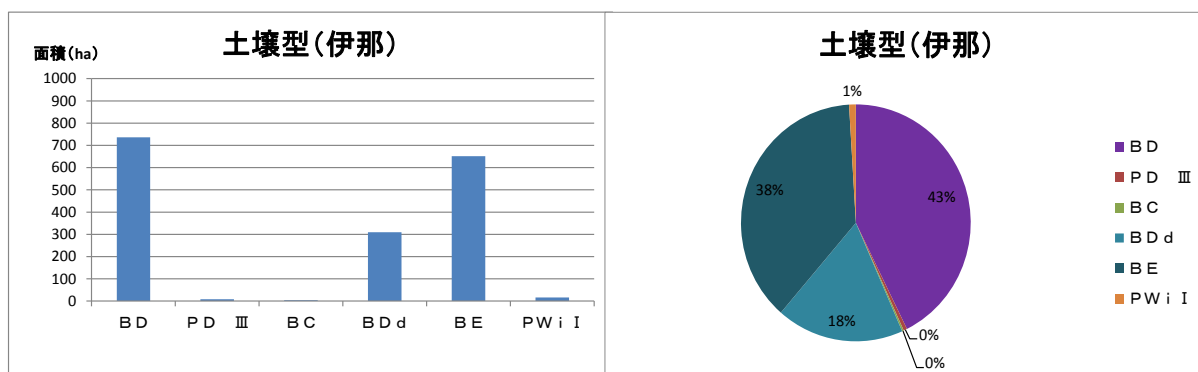
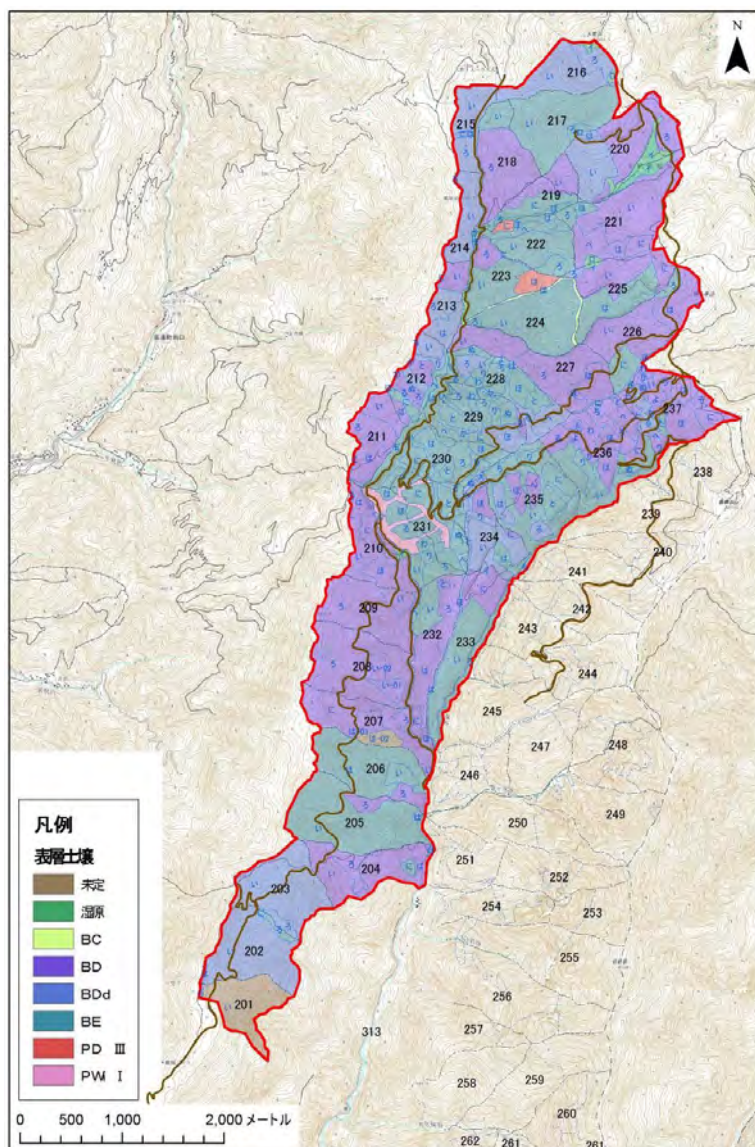


図 6-23 表層土壌（森林簿より）

③斜面方位

斜面方位は、東～北西向き斜面の出現が多く、北～北東向き斜面の出現が少ない（図 6-24）。

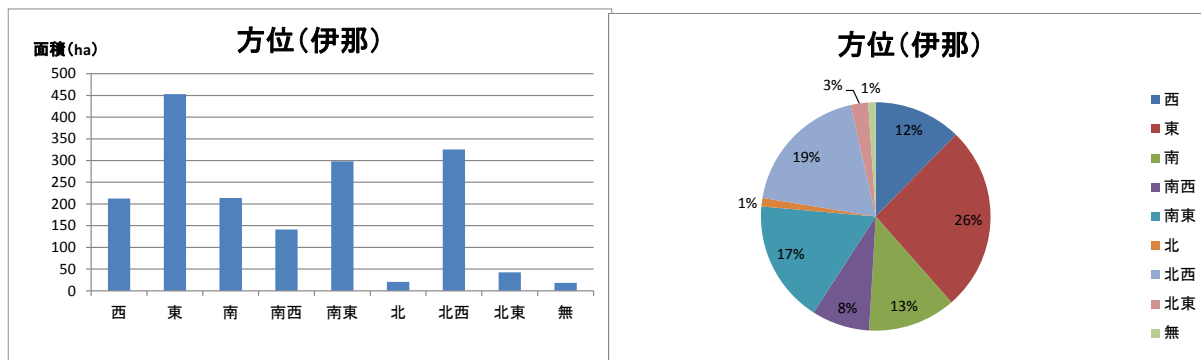
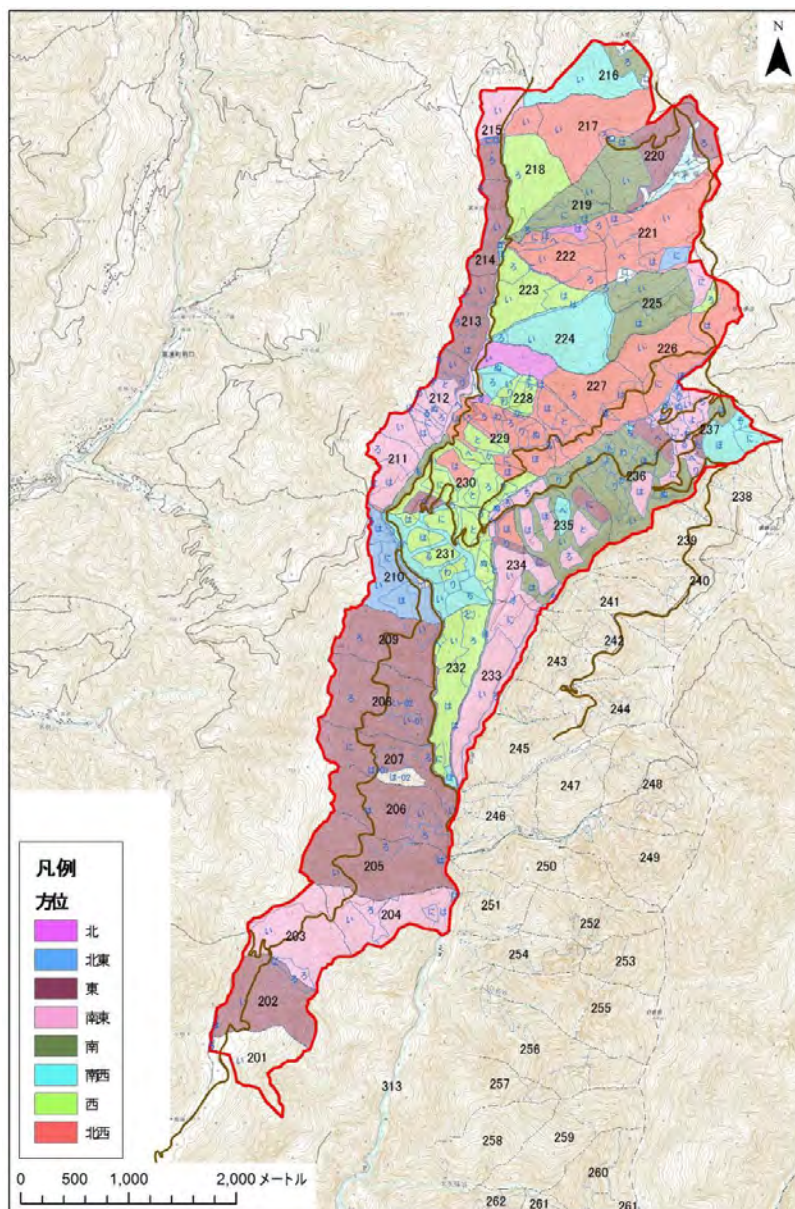


図 6-24 斜面方位（森林簿より）

④斜面傾斜

斜面傾斜は、平坦～緩傾斜地（ $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$ ）が少なく、急傾斜地（ 40° 以上）が全体の7割程度出現し、地形急峻な地形となっている（図6-25）。

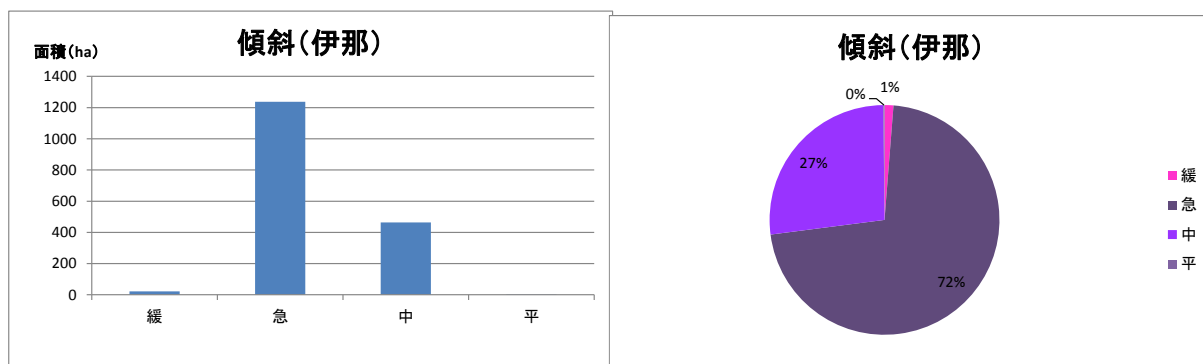
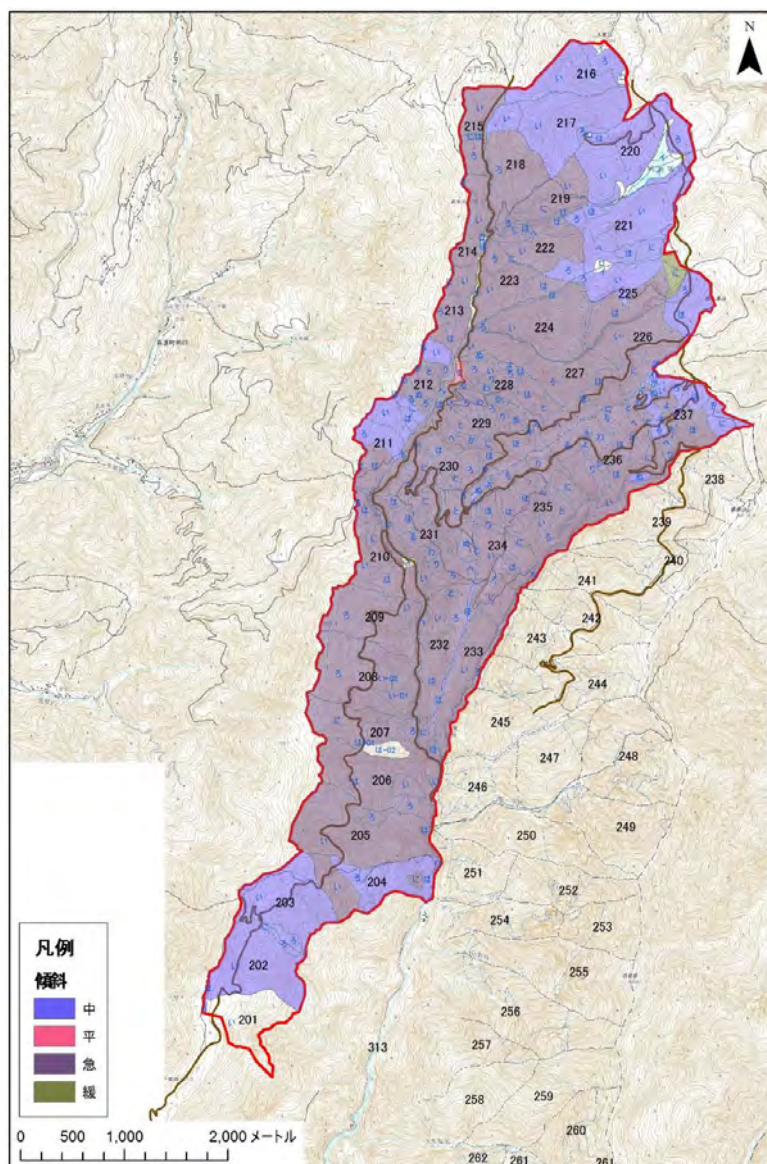


図6-25 斜面傾斜（森林簿より）

2-2. 森林概況等

①林種

林種は、多くが単層林（カラマツ人工林）で占められている。また天然林は、全体の14%、育成複層林は3%出現する（図6-26）。

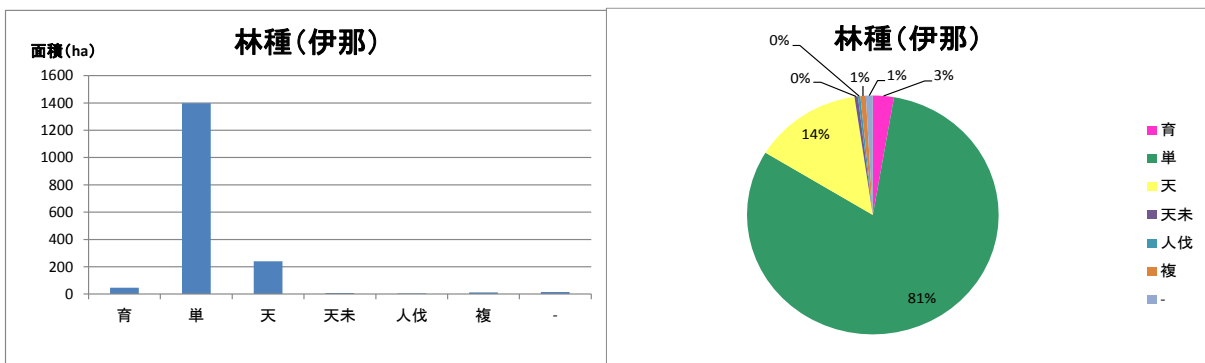
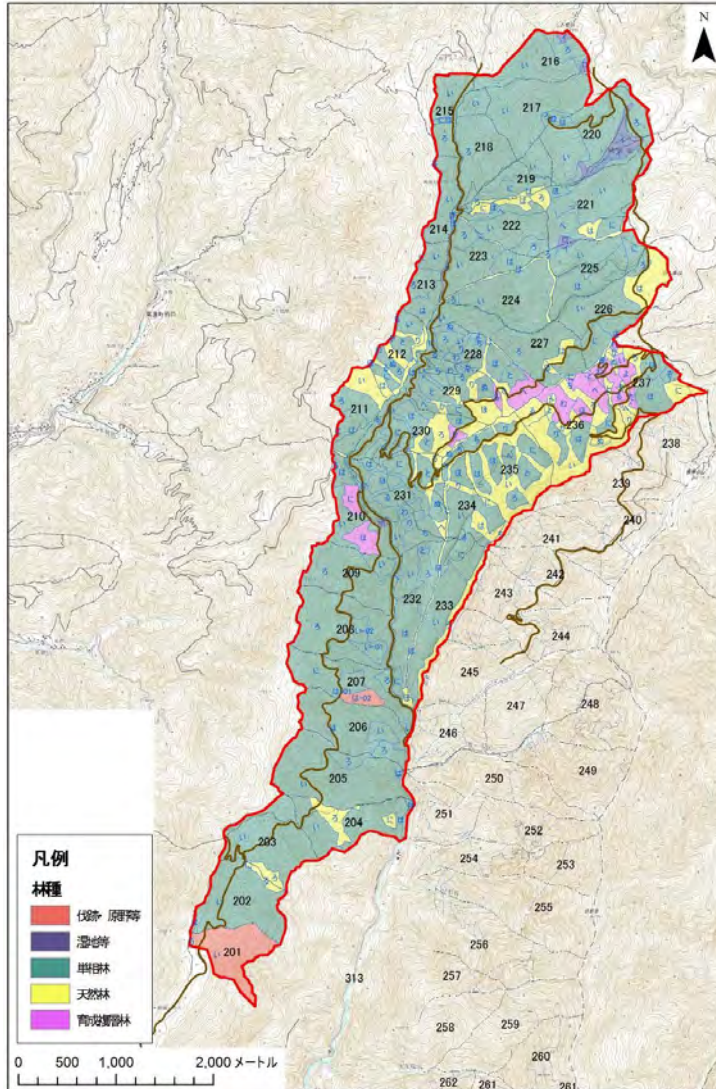


図6-26 林種（森林簿より）

②林相

林相は、9割近くをカラマツ等の針葉樹林が占め、針広混交林が1割出現する。なお、広葉樹林の出現はあまりみられない（図6-27）。

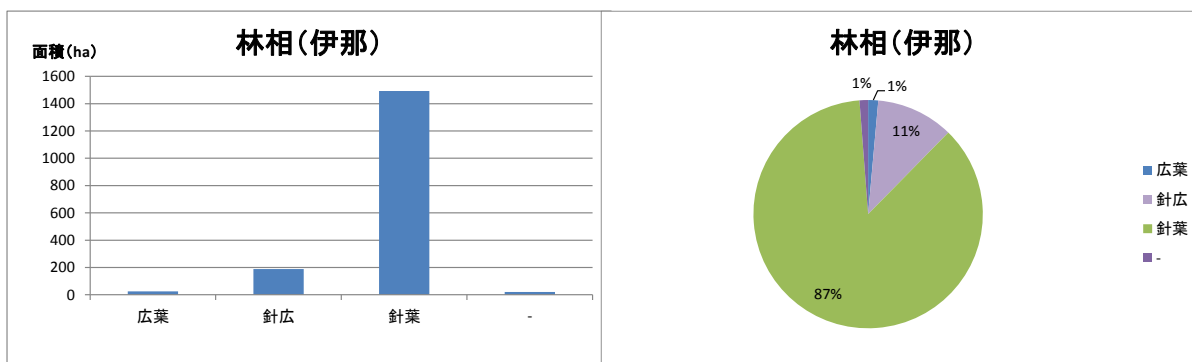
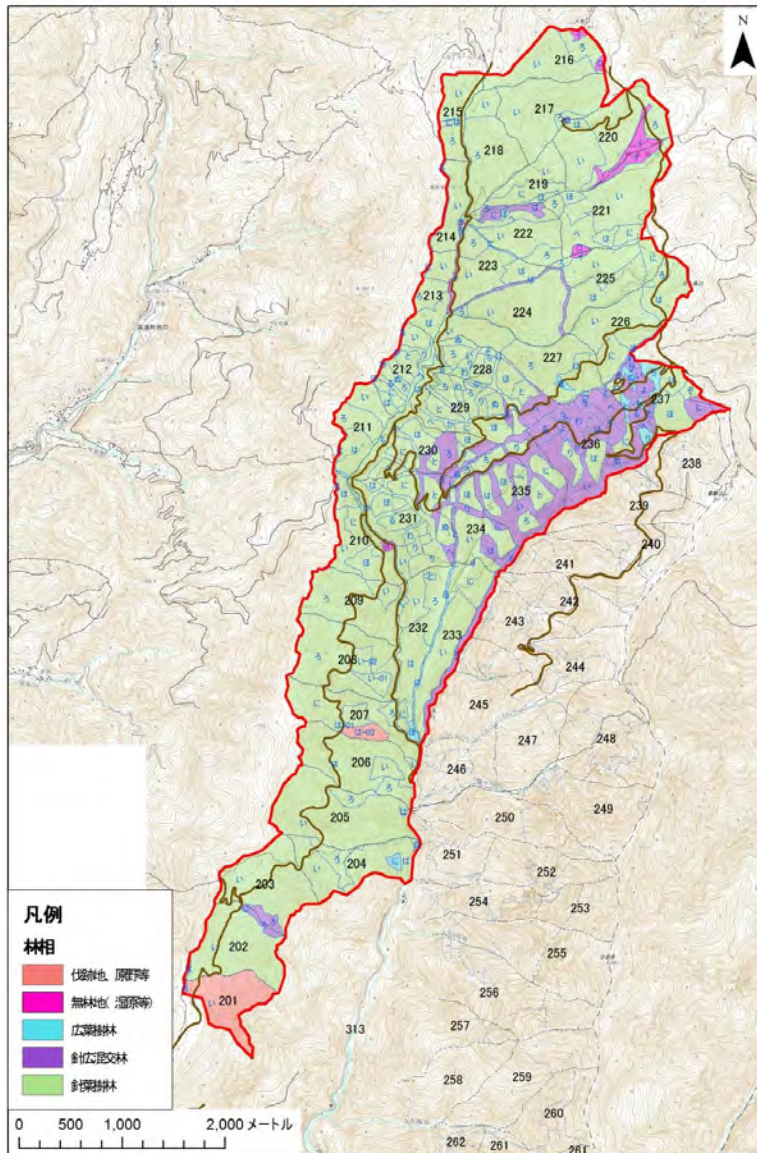


図6-27 林相（森林簿より）

③樹種

樹種は、8割をカラマツ人工林が占め、針葉樹天然林のコメツガが1割出現する。その他は、その他広葉樹が3%、カンバ、シラベがそれぞれ2%程度出現する（図6-28）。

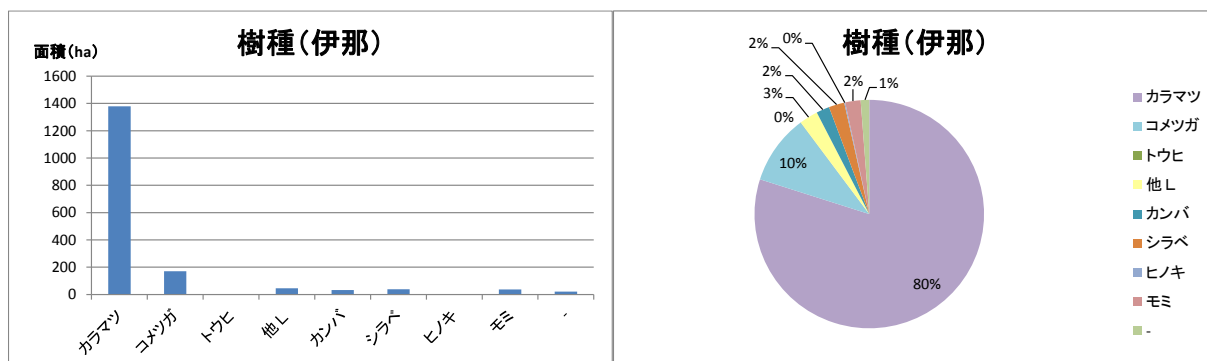
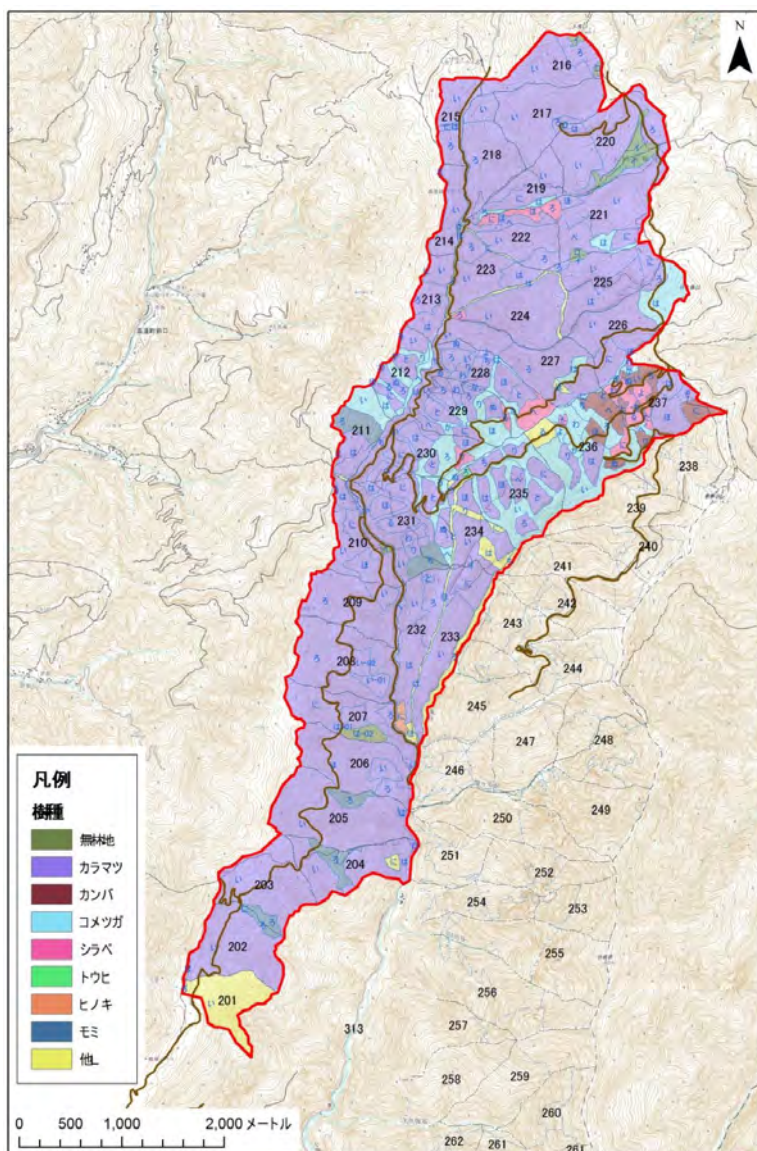


図6-28 樹種（森林簿より）

④林齢

林齢は、40～60年と101年以上の割合が多く、40～60年にはカラマツ人工林が多く該当し、101年以上にはコメツガやシラベ等の天然林の他、北部のカラマツ人工林も該当する（図6-29）。

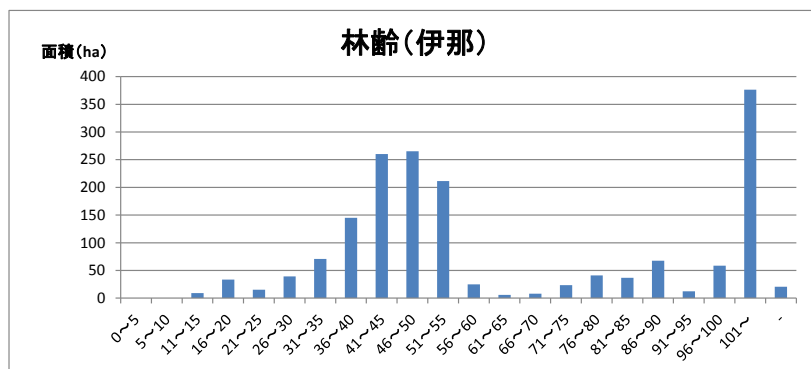
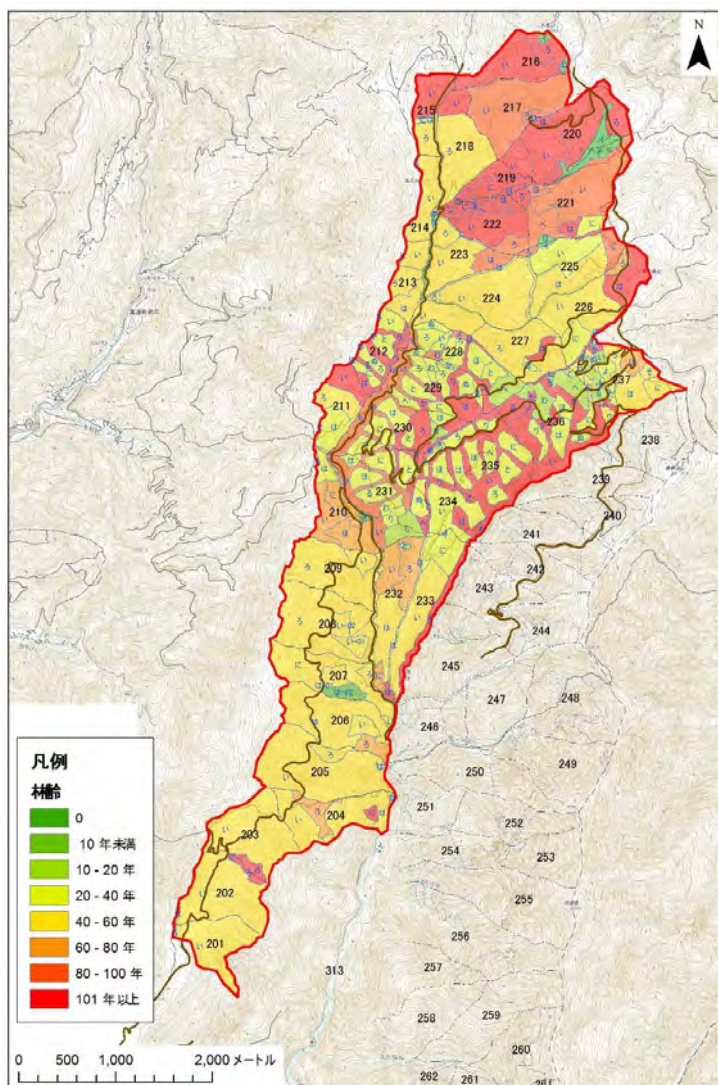


図6-29 林齢（森林簿より）

⑤樹高

樹高は、15～25m区分内が最も多く出現し、カラマツ人工林の多くが該当する。また、コメツガやシラベ等の天然林は地形急峻な尾根部に生育しており、林分の平均樹高は5m未満と低い（図 6-30）。

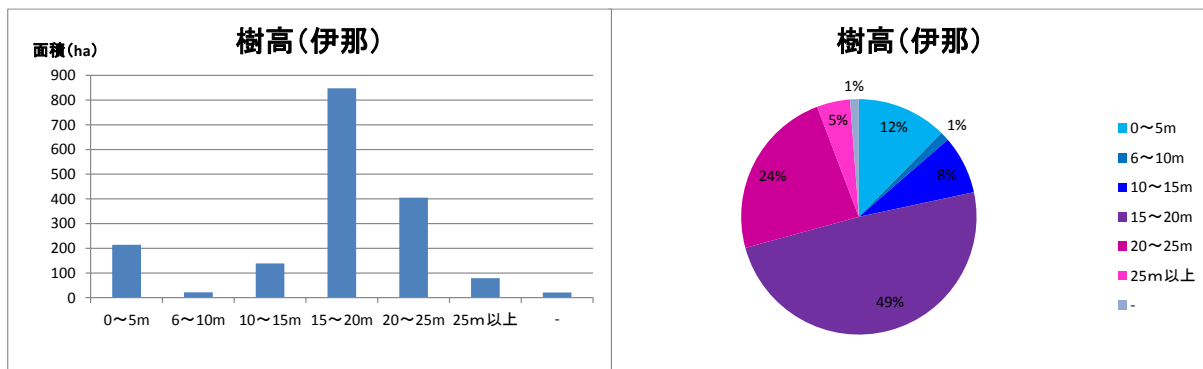
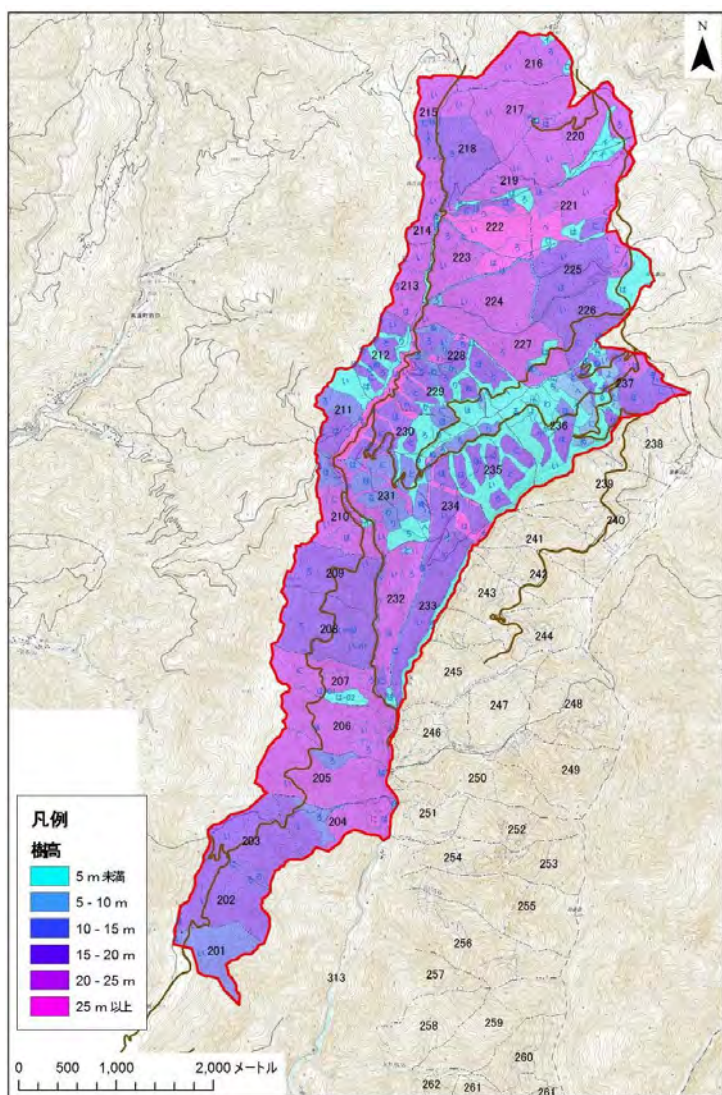


図 6-30 樹高 (森林簿より)

⑥胸高直径

胸高直径は、20～30cm 区分が多く出現しカラマツ人工林が該当する。また、コメツガやシラベ等の天然林は地形急峻な尾根部に点的的に生育しており、林分の平均胸高直径は10cm未滿と小さい(図6-31)。

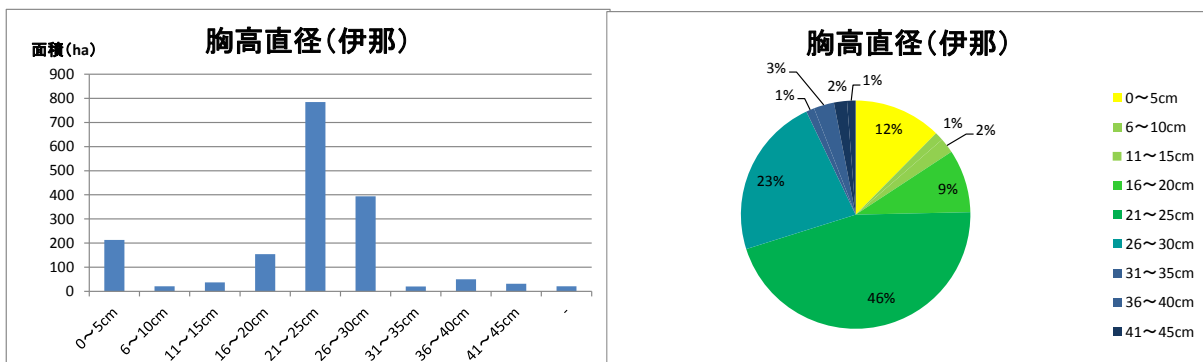
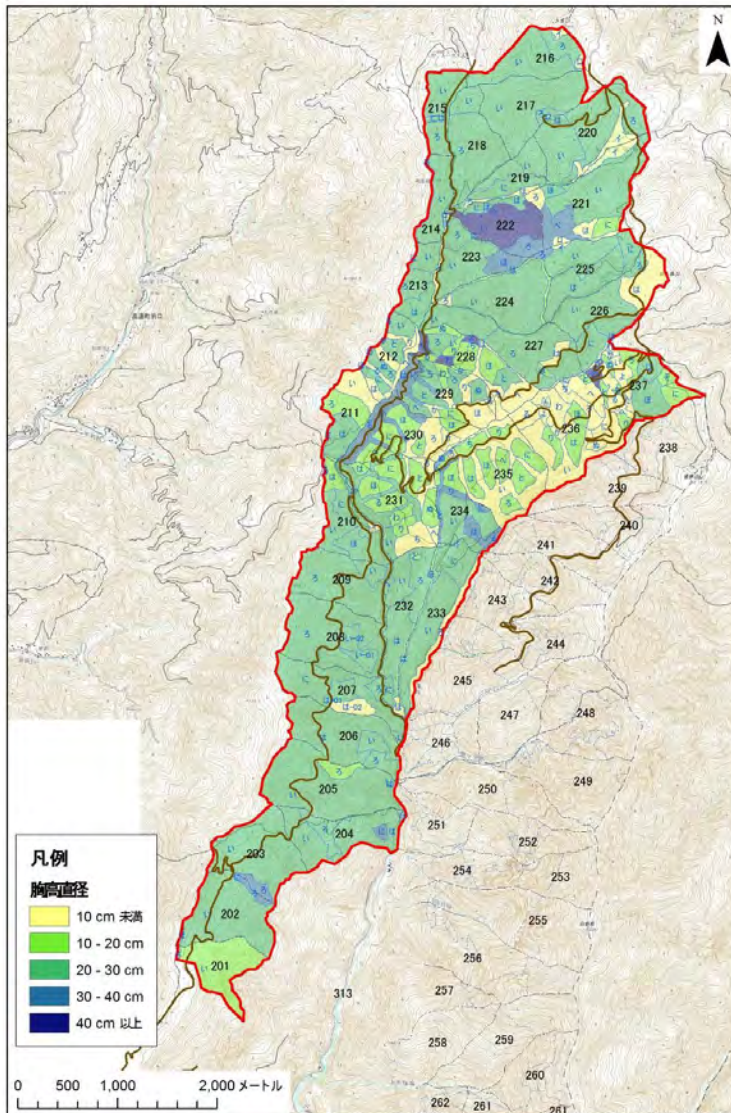


図6-31 胸高直径 (森林簿より)

⑦樹幹疎密度

樹冠疎密度は、尾根部に生育するコメツガやシラベなどの天然林では比較的樹冠疎密度が低く「中」を示す場所が多い。カラマツ人工林の多くは樹冠疎密度が「密」を示しているが、一部は「中」を示している（図 6-32）。

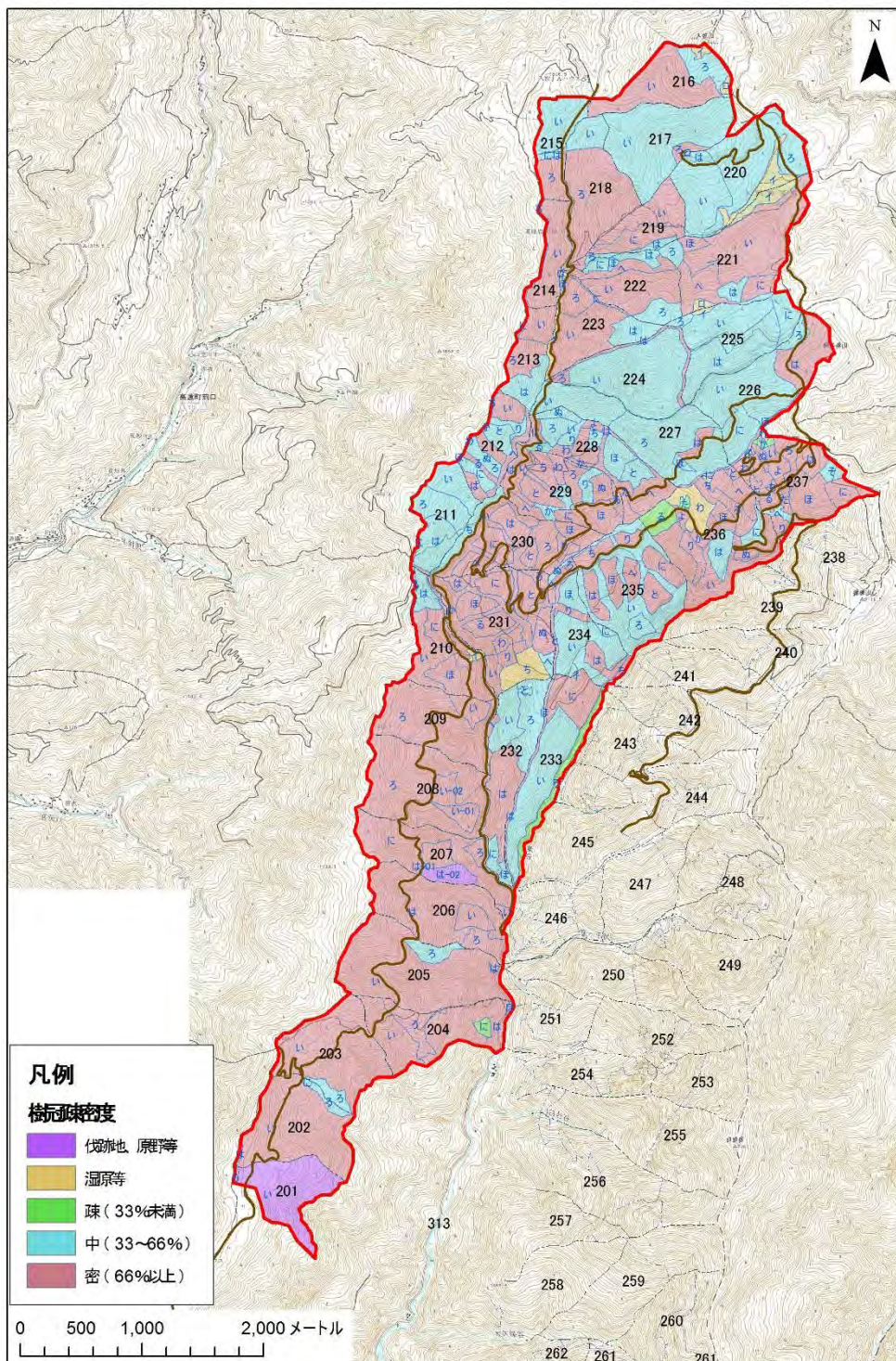


図 6-32 樹冠疎密度（森林簿より）

②機能類型

北部の入笠山周辺は森林空間利用機能林であり、東谷右岸部は山地災害防止（土砂）機能林、それ以外は水源かん養機能林である。なお、ほぼ全域が水源かん養保安林に指定されている（図 6-34）。

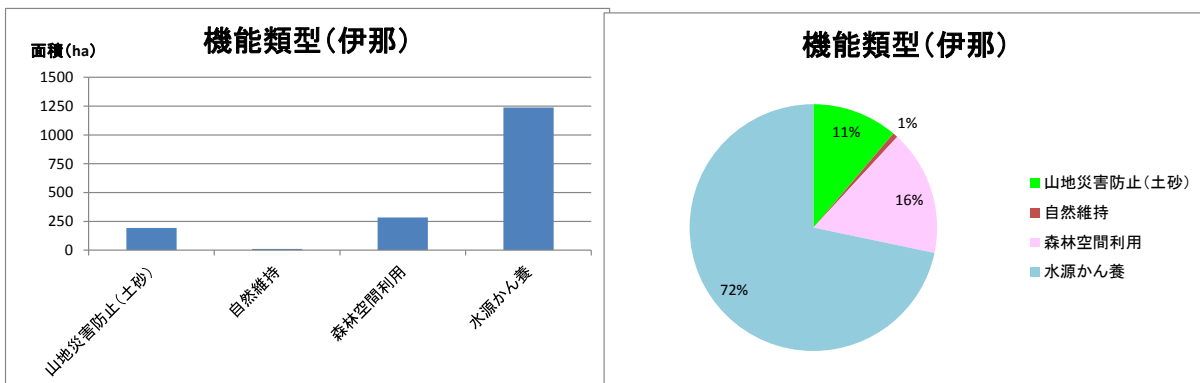
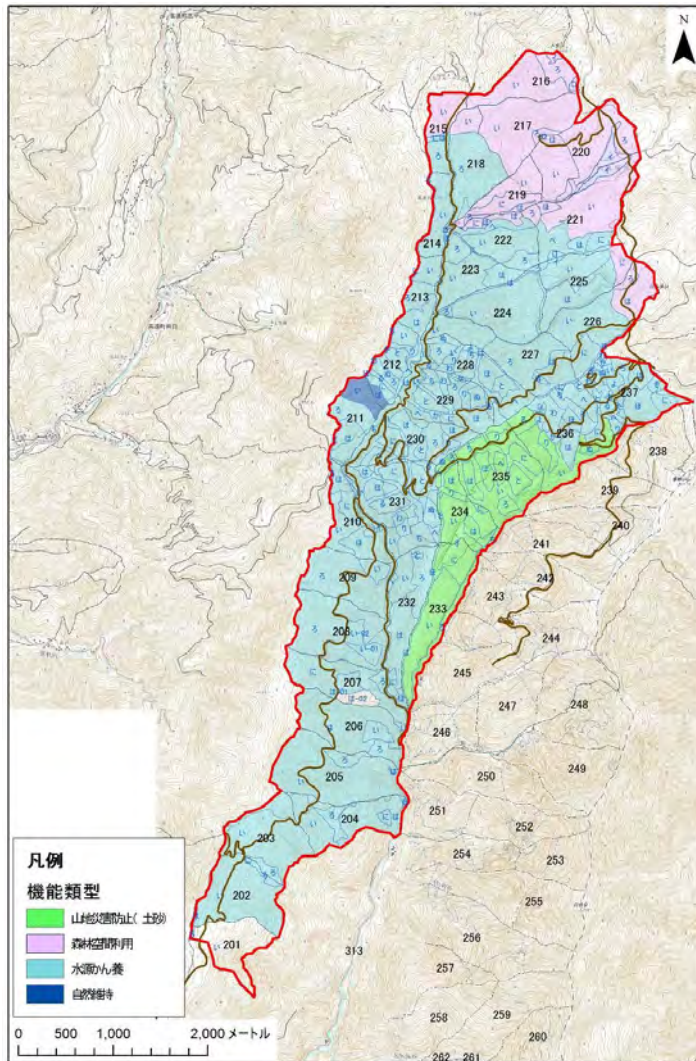


図 6-34 機能類型・保安林（森林簿より）